

第6章 地域での支え合い活動事例集

目次

見守り支援活動・要援護者支援マップづくり 60

表佐地区声かけ・見守り活動
あんしん見守りネットワーク事業
見守りカード・救急医療情報キットの配布
災害時要援護者支援セーフティネットプロジェクト
要援護者支援マップの作成

サロン活動・住民のたまり場 65

ふれあいサロン ほっこり広場
立ち寄りサロン
ふれあい・いきいきサロン
ふれあいいきいきサロン
地域密着 多世代くらぶ
街かどふれあいプラザみのじ庵
リフレッシュサロンほほえみ（傾聴サロン）

助け合い・生活支援・移送サービス 72

サロンを中心とした地域支え合い活動
若葉台高齢者支え合い事業
「みんなの家」事業
高齢化もなんのその！地域の“絆”再生事業
生活支援サービスの提供
地域密着型の生活支援
買い物支援（生活支援）事業
根本おでかけバス運行事業
生活支援活動を担える住民の育成と活動

配食サービス

81

まごころ給食
食事サービス事業
配食サービス

交流・座談会

85

京町地区幼児・児童とひとり暮らし高齢者とのふれあい広場
在宅高齢者の話し相手ボランティア活動
地域福祉懇談会の開催

学校における取組

88

ふるさと学習
福祉学習『共に生きる～高齢者と自分』

【活動の名称】	あんしん見守りネットワーク事業		
【団体名】	社会福祉法人 大垣市社会福祉協議会	市内20地区社会福祉推進協議会	[大垣市]

【内容】

「あんしん見守りネットワーク事業」は、平成20年度より、市内全20地区社協を基盤に自治会を単位として、ひとり暮らし高齢者、高齢者世帯、障がい者の方、虚弱な方など住み慣れた地域で生活し続けることに不安がある方や、日ごろの声かけなどによって元気に生活していただけの方などを対象にその地域住民が一体となり、見守りや話し相手など地域の人たちで出来ることを行い、誰もが地域の中で孤立することなく、安心して生活できるまちづくり、地域住民同士の支え合い、見守り活動を実施しています。具体的には、地域の中の気がかりな方に対して、自治会長、民生児童委員、福祉推進委員、近隣住民などで、見守り隊を編成し、見守り関係図を作成し、定期的な見守り活動を行います。見守り隊は、あいさつや声かけ、日常生活の中でさりげない見守り活動を通じ、必要に応じて、民生児童委員や自治会長、大垣市社会福祉協議会に連絡します。

また、平成25年度においては、地域住民の見守りネットワーク活動に加え、新規事業として日常業務の中で見守りに関係するさまざまな事業所（郵便局、新聞販売店、金融機関、コープ、ヤクルトなど）の皆さまと連携した見守りネットワーク活動をすすめ、早期に異変を発見し、誰もが住み慣れた地域で安心して生活できる地域づくりを目的に、見守り関係事業所（市内26事業所）と大垣市社会福祉協議会が「見守り協定」を締結し、より重層的な見守りネットワークの構築を図ることを推進します。

見守り実施自治会数等（平成25年3月31日現在）

自治会数	見守り実施自治会数	見守り対象者数	見守り関係図提出数
494	381	3,182	1,597



◎これから活動を始め方へのメッセージ

3年間をかけてモデル指定をし、全20地区で見守りネットワーク事業が定着しました。地道な活動ですが、常に状況を確認し合い、継続出来る方法を検討することが大切です。今後は、災害時の支援や対応なども視野に入れた活動も必要ではないかと思えます。

【活動の名称】	災害時要援護者支援セーフティネットプロジェクト	
【団体名】	陶町明日に向かって街づくり推進協議会	[瑞浪市]

【内容】

防災訓練時、どこへどのように逃げるか分からないという声から、平成 20 年より 3 年で各地区ごとに、マップ作りが行われました。各地区の班長、消防団、回覧の呼びかけにて集まった方々で作業されました。班ごとに土砂崩れ、河川の氾濫が心配される場所に印をつけます。そして、班の中に避難時に支援が必要な人の情報も書き入れます。身体状況を確認し、災害時の移動方法、介助に何人必要で、誰が行うのかをリストとしてまとめました。また、班内での一時避難場所を地震災害と雨災害で分けて考えました。地震災害時は、まわりに建物がない広場、雨災害時は、屋根があった方が望ましいとのことで、班内の方の車庫が選ばれるケースもありました。防災訓練では、まず一時避難所へ避難し、そこから班で歩いて避難所（公共施設）へ移動することがメインで行われました。その後、炊き出しや起震車等の体験も行いました。



平成 23 年は「我が家の減災絆シート」を各家庭に配布しました。家族で防災について話し合うきっかけとなるよう、自宅や危険箇所、避難場所を書き入れる白地図とチェックリストで確認できるようにしました。

その後もマップは、手法を変えて作成され、地域で声をかけ合い、日頃からの見守りへの材料として活用されています。



【今後の展開】

街づくりのセーフティネット部会を設立。「避難しなくてはいけない」という意識をつけ、地域で自分たちの身を守る行動へつなげていけるよう、取り組みを強化していきます。また、平日の日中に災害が起きた場合、町の中で一番力があるのは中学生だと想定されます。中学生に防災の意識を高めてもらう学習を行っており、今後は日頃から地域の高齢者との関わりを作っていく取り組みを考えています。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

防災マップづくりをきっかけに、防災に対する意識を高めることができました。そして、セーフティネット部会の設立へつながったことが大きな成果であると思います。今後も地域での支え合いを大切に、日頃の見守り活動から防災へとつなげていければと考えています。

サロン活動・住民のたまり場

【活動の名称】	ふれあいサロン ほっこり広場	
【団体名】	NPO法人 グッドライフ・サポートセンター	[岐阜市]

【取組の概要】

平成24年1月から平成25年3月まで「県民の参画と協働による地域づくり支援事業」で地域の問題を企業・地域・NPO・行政と一緒に解決していこうとアンケート調査や企画運営会議・ワールドカフェなどを実施しました。企業である「マーサ21」を拠点に、拡大家族づくりをコンセプトに地域の課題を出し合いました。その結果、マーサ21付近の地域の課題が高齢化・核家族化であることがわかったため、人が地域から孤立しないために、『多世代交流のできる「居場所づくり」で相互扶助を実現し、みんなが元気になる』場所づくりを目標に、アクションプランとして「ふれあいサロンほっこり広場」を平成25年1月からマーサ21北館4階にて月8回（火曜日・木曜日、10:15～12:00・13:00～15:00）開催しました。

事業は3月で終了したため、現在は、鷺山自治会（人材の提供・広報などの協力）・マーサ21（人材の提供・場所の提供など）・NPO法人グッドライフ・サポートセンター（人材の提供・講座計画・広報など）の3者で、それぞれができることを持ち合いながら継続しています。

資金面は岐阜県社会福祉協議会より平成25年度岐阜県ボランティア活動振興基金助成事業助成を受けて展開。人材面としては、3者が出し合い、繋がりがあいながら継続しています。

内容としては、笑ヨガ・筋力トレーニング・包括支援センター講座・ボウリング大会・コーラス・将棋・折り紙教室・編み物・和み文字講座・お茶会など、地域の方々や他のNPO法人が講師となり、楽しい講座や時間を提供しています。参加者は高齢者が中心ですが、子育て施設と隣接していることから子育て中の親子の参加も増えてきました。多い講座で38名の参加があります。

【今後の課題】

資金面が一番の課題です。参加費はどなたでも気軽によっていただきたくお茶代として100円と格安なため、消耗品費・講師謝金費などが参加費だけではまかなえません。参加者や講座内容は広がりますが、継続するために資金確保が課題となっています。



(100歳のおばあちゃんから9歳のお子さんまで)



(男性も多く参加のボウリング大会)



◎これから活動を始め方へのメッセージ

人材と資金の確保が喫緊の課題です。一方で、「夫を亡くし家に引きこもっていたら、友人にこの場所に誘われて参加し、たくさんの人とおしゃべりができてランチにもご一緒しました。本当にありがとう！」など利用者の方からの感謝の言葉が私たちの活動の一番の活力となっています。

【活動の名称】	立ち寄りサロン
【団体名】	特定非営利活動法人楽々会 [下呂市]

【取組の概要】

活動場所は、「南飛騨はぎわら十六館」ですが、ここは以前、十六銀行だった場所で萩原商店街の中にあります。ここで、毎週金曜日、9時30分から15時30分まで、高齢者や子どもを中心としての居場所づくりとして、「立ち寄りサロン」を開いています。特に、高齢者の方々には立ち寄り、休憩、体験、交流などの場になり、会員も原則60歳以上の者ですので、ここで当番をして、この活動に参加することで、会員自身が元気で楽しみ、生きがいづくりの場になればと思っています。サロンですので、何をしなければいけないと言うことはなく、月に一度は、体操や押し花など、会員による体験会も希望者にはさせていただきますが、時間内ならば滞在時間も参加者の自由です。参加・体験料として200円頂きますが、お茶やお茶菓子代に充てます。会員には当番時にガソリン代として一回100円支払いますが、それ以外の時は参加料として100円頂きます。

【今後の課題】

平成24年11月に始まったこの活動もようやく1年が過ぎようとしています。地域の方には、まだ認知度が低いですし、活動できる会員は30名ほどいますが、会員自身が多忙の者が多く、金曜日には十六館で時間を使うとまでにはなっていません。特に、一人暮らしの方々の交流の場、友達づくり、そこから発展して、支え合い活動ができるといいなと思っています。



左：押し花体験
右：参加者が、朝市で買い物して、その後おしゃべり



◎これから活動を始め方へのメッセージ

会員から教えてもらい、布ぞうり作りを始めました。好きな方は、何足か作るうちに教える側になりました。立派に出来るようになったら売る予定です。作ることがそれほど好きでない方は、おしゃべりやゲームをします。話し相手やお友達が出来た、認められて嬉しいなど楽しみや生きがいの場なり、参加される方に喜んでいただいています。

【活動の名称】	ふれあい・いきいきサロン	
【団体名】	下新町・新町・天王町町内会	[笠松町]
<p data-bbox="165 315 256 347">【内容】</p> <p data-bbox="181 365 1241 396">歩いてでかけられる場所に気軽に集う、ふれあいいいきいきサロンの運営です。</p> <p data-bbox="153 414 1426 495">3つの町内の町内会長や民生委員、老人会長さんや町内のボランティアで喫茶型のサロンを運営。100円でお茶とお茶菓子を食することができ、集まった人とおしゃべりをして過ごします。</p> <p data-bbox="153 512 1401 593">土曜日の開催時には町内の中学生などがボランティアでスタッフとして参加することもあります。</p> <p data-bbox="181 611 1390 642">サロンに来ることにより、町内でのつながりづくり、地域課題を発見できる場となります。</p> <p data-bbox="165 710 344 741">【今後の展開】</p> <p data-bbox="153 759 1426 840">高齢者の参加は多いのですが、平日だけでなく土曜日にも開催しているので、高齢者以外の参加者が増えるといいです。</p> <p data-bbox="153 857 1406 938">今後は、町内のいろいろな世代の方に参加してもらえるようなサロンになるといいと思います。</p>		

【活動の名称】	ふれあいいきいきサロン
【団体名】	20地区社会福祉推進協議会 [大垣市]

【内容】

大垣市では平成14年からスタートした「ふれあいいきいきサロン事業」。平成25年9月現在、サロンは226か所に設置され、314自治会で実施しています。(市内自治会数は494)

回数は下記表のとおり様々ですが、年4回以上実施することで市社協から助成をすることになっています。4回とハードルを低くすることによって「とりあえずやってみよう」という気持ちになります。最初は4回だったサロンも回数を増やすようになっています。

年4回以下	3か所
年4回以上	223か所
年5回以上	130か所
年6回以上	105か所
年7回以上	66か所
年8回以上	57か所
年9回以上	50か所
年10回以上	43か所
年11回以上	35か所
年12回以上	29か所

また、喫茶式サロンも増加しており、平成25年9月現在、17か所で設置運営されています。

【市社協の支援】

平成23年度から、地区社協単位で「サロン研修会・交流会」を行っています。全体研修ですと、参加者が限られ、サロン未実施自治会への促しが難しかったですが、地区社協別に研修会を行うことにより、未実施自治会への周知ができ、結果として、サロンは増加傾向にあります。また、地区別に行うことにより、情報交換がしやすくなる、ボランティア同士の輪が広がる効果もあります。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

レクリエーションや介護予防、食事会など、サロンでさまざまなことを実施していますが、ふれあいいきいきサロンの本来の目的であります「気軽に集える場づくり」ということを忘れてしまうとイベント的になってしまい、ボランティアさんの負担になります。目的を常に忘れずにいることが大切だと思います。

【活動の名称】	地域密着 多世代くらぶ*	
【団体名】	ひなたぼっこくらぶ（ハイタウン北方自治会他）	[北方町]

【取組の概要】

平成24年、県内有数の大規模団地「ハイタウン北方」（約600世帯）を含む近隣地域において、高齢者や乳幼児親子の「孤立防止」「仲間づくり支援」を目的に、地域のたまり場「ひなたぼっこくらぶ」を団地集会場に開館した。団地の自治会や近隣住民を中心とした、70歳代～80歳代のボランティアが中心となり、①カフェコーナーの設置 ②健康体操や脳トレ・健康教室（栄養教室や認知症講座等）の開催 ③乳幼児親子を対象としたふれあい遊びの提供 ④季節行事・誕生日会等の多世代交流の場を、行政・社会福祉協議会・包括支援センター・社会福祉法人和光会などが専門職を派遣するなどの援助を行い運営している。

年間を通じた活動で、子育て家庭にとっては、大勢の人と関わる事で育児ストレスが軽減する場となり、また地域住民にとっては、身近に集う場所ができた事で笑い合える仲間の輪が広がり、連帯感が深まっている。



開館2年目となり多世代交流が日常的に・自然にできる環境の中で、世代を超えた支え合い活動の幅が広がりを見せている。子育てママを応援するため、住民による「短時間託児」や乳幼児の遊び相手をするほか、地域の方が調理器具や食材を用意し、幼児から高齢者みんなで夕食を作って食べる「食事会」の開催、高齢者が敬遠しがちなパソコンを子育てママが教えるなど、新旧混在地において、顔見知りの関係が徐々に構築されてきた事で温かい絆が生まれている。



【今後の展開】

地域の支え合いの輪が広がり、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指す為に、“暮らしの小さなお手伝い「ひなたぼっこくらぶ★お助け隊」”の結成を試みている。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

まだまだ元気な70歳代・80歳代高齢者の方々に、ボランティアとして活動を支えていただけけるには、仲間づくり支援からスタート。地域高齢者が元気になる・楽しい「地域のたまり場」は、同世代のみの集まりではなく、多世代が自然な形で行われる環境づくりによって、笑顔や思いやりにあふれた場所になります。個々の性格・生活習慣を徐々に認め合う事も大切です。活動をサポートする側は、常に「笑顔」と「感謝」の気持ちを忘れずに！！

*平成25年度岐阜県「地域の絆づくり重点推進モデル事業」地域指定

【活動の名称】	街かどふれあいプラザみのじ庵
【団体名】	特定非営利活動法人 福祉サポートセンター さわやか岐阜みのじ [岐阜市]

【内容】

「街かどふれあいプラザみのじ庵」は、平成18年4月に岐阜県と旧柳津町より「街かどふれあいプラザ事業」として一部補助金をいただいて法人事務所を増改築し開設いたしました。以来、現在まで地域の人々の信頼と笑顔に支えられて継続しています。

この「みのじ庵」は、「居場所」です。人と人とが交わる場所です。ここでは、ふれあい、地域支え合い、情報交換、相談、苦情、協働の場になっています。ここで、重要な事は、「すべての人に居場所と出番があり、皆が人に役立つ喜びを大切に作る地域社会」を作っていくことです。通常は、月曜日～金曜日、9時～17時で常時、居場所として開設しています。

その中でも、開設時より毎週水曜日の10時から15時30分には、近所の高齢者（70歳～90歳）13名程の方が、集ってサロン活動を行っています。昼食、おやつ、材料付で、1日1000円の利用料です。当初の内容は法人からの提供型でしたが、徐々に自主的なサロン活動に進化しました。前週に季節や旬の食材をふまえ、次回の献立をみんなで考え、野菜を作って持参して下さる人、買い物に行ってくださいる人、料理を作って下さる人、配膳をして下さる人、皿盛り、お箸の準備、醤油や手作り柿酢をよそって下さる人とそれぞれが得意な仕事をしていただいています。楽しく食事をした後は、また、皆がそれぞれ得意分野を分担して後片付け、食器洗い、机拭き、床の掃除とすべて、参加者全員で、やっていただく事により、一人一人皆が、輝いて生きる場所作りを実践しています。参加者が主役であり、先生です。いつまでも、生き生きとやれる、やりがいある、役立っているという喜びがあり、いつまでも輝いて生きたいと自主的に実践されています。食事以外では、毎回、俳句、絵手紙、貼り絵、手作り小物の制作や、認知症の勉強、健康相談等日替わりで、行っています。時には参加者の誰かが講師になる日もあります。もちろん、おしゃべりタイムもしっかりあります。7月には、平和祈願の折鶴を作り、岐阜市へ届けました。時には外出として、花を見に行ったり、展覧会や、講演会に行ったりもしています。また、年一度、ごきぶり団子を作って近所に配っています。内容はすべて、参加者が話し合っ決めていきます。居場所は、いつでも立ち寄り、地域の実家のような家族的なたまり場です。これからも継続していけるよう応援していきます。

法人としては、サポーターとして見守り、応援をするだけです。

ただ、この居場所やシステムを維持するために、この場所で、週2回、岐阜市の認知症予防事業である「まめかな元気脳教室」の受託や、岐阜県グループホーム協議会の事務所受託、移送サービス事業、助け合い事業、また、隣接地でグループホーム事業などを実施し、各種団体とコラボ（協働）して総合的に、時には専門的に、素早く地域に発信、貢献できるようにしています。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

- 1 まず地域において支え合い活動に参加。実践を通して体験することが一番です。
- 2 地域福祉は、ふれあいに参加するたびに地域の人と顔なじみになり楽しいです。
- 3 地域の居場所での支え合い活動は、そこには、学ぶことや教えられることや発見がいっぱいあります。皆が元気いっぱいです。明るい笑顔がいっぱいです。
- 4 理念をしっかり持って多種多様な人々とネットワークを組みましょう。
- 5 地域ふれあいの町づくりにあなたも是非その輪の中に参加しましょうよ。

【活動の名称】	リフレッシュサロンほほえみ（傾聴サロン）
【団体名】	リフレッシュサロンほほえみ [多治見市]

【取組の概要】

この事業は、心の病や悩みなど“心の健康を損なっている人”を対象に、心の中を語っていただき“傾聴されることで気持ちが軽くなり、心の解放に繋げる”ことを目的とした傾聴サロン活動です。このサロンは月一回開催され、常時7～8名のスタッフが待機し、来場される方のお話をサロン形式で傾聴しますが、希望者には個別に対応できるよう個室も準備しています。

平成24年度にサロン立ち上げに向け、心の健康や傾聴について学ぶ「リフレッシュサロンボランティア養成講座」が開催され、その講座修了者が本サロンスタッフとして活動しています。

サロン名：リフレッシュサロンほほえみ（平成25年3月設立）

開催日：毎月第3木曜日（平成26年4月からは、第1木曜日の10時～12時を追加）

場 所：多治見市総合福祉センター内集会室及び相談室

開催時間：10時～12時、13時～15時

対象者：心の病や悩みを抱える方

申込み：不要

参加費：無料

サロンスタッフ数：21名



◎これから活動を始め方へのメッセージ

本サロンを立ち上げるにあたり、実際に来訪者があるのか大変不安でしたが、「話が聴いてほしい人を待つ場所」として「あせらずに、ゆっくりと活動が続けていこう」と話し合い、広報やチラシなどでの周知や、スキルスアアップ研修を重ねて来ました。その結果、来訪者も徐々に増え、平成26年度には開催日を増やすに至りました。深刻な様子で来られた方の、帰り際の和らいだ表情は、私達スタッフの活動の励みになっています。



研修会の様子



個別での傾聴の様子

助け合い・生活支援・移送サービス

【活動の名称】	サロンを中心とした地域支え合い活動	
【団体名】	おなびあさひ会	[郡上市]
【内容】	<p>郡上市八幡町小那比地域は人口約260人で高齢化率は63%となっており、特に一人暮らし高齢者や高齢者世帯に対する支援が求められている。</p> <p>もともと集会所などを利用したサロンが11カ所あり、また民生委員の訪問相談、自治会・公民館活動等も活発に行なわれている。こうした活動の、より一層の連携・協働を図るため地域の関係機関・団体で構成された「おなびあさひ会」を平成21年に設立した。</p> <p><サロン交流会></p> <p>11カ所あるサロン参加者を中心に交流会を年2回実施。「心の健康」について大学講師を招き講演いただいたり、「お口の健康」について歯科医師を招き講演いただいたり、またカラオケ大会など自らの技の披露や普段地域の中では見られない芸能観賞（生バンド演奏やフラダンス等）など、健康づくりや生きがいづくりにつなげるために様々な催しを実施してきた。昨年度は10月に70名参加、3月に53名の参加でした。</p> <p><生きがい喫茶></p> <p>誰でも気軽に集える場所、相談しやすい場づくりとしておなびあさひ会事務所を開放し、毎週土曜日、午前中を基本として喫茶を開催。昨年度は48回開催、192名の参加でした。</p> <p><ボランティア活動></p> <p>デイサービスセンターの行事手伝いや地域の草刈り、清掃など、各サロンが声を掛け合い協力しながら小那比全体で年20回程度行っている。</p> <p><見守りネットワーク></p> <p>民生委員、福祉委員、サロン関係者、自治会、デイサービス職員、地域包括支援センター、ケアマネジャー、郡上市社会福祉協議会職員などが集まり、年5回ほど地域の課題や見守り・声かけが必要な方の情報交換や対応を話し合っている。</p> <p>【今後の展望・課題】</p> <p>地域の人口の減少に伴いサロン交流会への参加者が少なくなっている。地域の健康づくりやネットワークづくり、見守りのためにも今後どのように維持、強化していくかが課題となっている。</p> <p style="text-align: center;">◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆</p> <p>◎これから活動を始め方へのメッセージ</p> <p>活動の一環である「あさひ会サロン交流会」では地域の老若男女関係なく全員集まるととても良い機会となっています。</p> <p>小那比に興味をもってくれる人も増え、活動をしていなかったら出会えていない、市外や県外からの人との交流も増えました。</p> <p>とにかく「暮らしやすく楽しくしていこう」と皆でやっています。活動をしていくなかでは地域の有識者や代表になって引っ張ってくれる人、公民館や自治会長など皆を巻き込んでいくことが大切なことだと思います。がんばってください。</p>	

【活動の名称】	若葉台高齢者支え合い事業*	
【団体名】	若葉台高齢福祉連合会	[可児市]

【内容】

住民主体で広範な活動を展開して「支え合いの街づくり」を行っています。

<高齢者ふれあい事業>

会のなまえ	内 容	開催頻度	記 事
わかば302	30分ウォーキング	週2回 無料	年間参加者3千人
和みの会	手作りランチ会	月1回 ¥400	孤食者対策 30食
いきいき若葉	介護予防講座	月1回 無料	心と体の健康講座
ダンディーサロン	麻雀・民舞・ランチ	月12回 ¥100	男性が多く盛況
見学バスツアー	市内各種施設・旧跡めぐり	年4回 無料	ご近所さんとのふれあい
里山バーベキュー	野外でワイルドに実施	年2回 ¥600	自主整備した里山利用

<高齢者支え合い事業>

事業の名前	内 容	利用料
ほのぼのアッシーくん	団地内を循環して駅前商店街へ。移動手段を持たない高齢者の日常生活移動支援。月間利用者数400人	無料
緊急しのぎ支援	突然の出来事に家族が来るまで、緊急しのぎ支援	無料
家事ちょこっと支援	日常家事のお手伝い	¥300~
ふれあい市場	家庭菜園・新鮮産直魚介の朝市 年数回	特価

<その他の事業>

支援センター設置・運営	支援活動の拠点	平成24年秋新築開所
ふれあいセンター設置・運営	サロン等住民のふれあいの場	同上
広報紙の発行	住民向け福祉活動状況の広報	月刊

出来そうのできない小地域近隣福祉活動ですが、人口3200人の団地で、わずか1年でこれだけ立ち上げました。



(移動支援)

新発想の「住民による地域福祉推進システム」で、
 男性過半で多数の地域活動者とノウハウが一挙に集結、
 多様な活動が一気に立ち上がって、
 支援ボランティアにストレス・マイナス思考全くなし
 利用者は月を追って増加
 将来的にも公費補助に頼らず、自主自前で運営。
 高齢化地域を幸齢化地域に
 高齢者が住みやすい地域社会は、子育て世代も住みやすい。



(介護予防講座)



◎これから活動を始め方へのメッセージ

自治会や区といった自分たちの地域で、新たな取り組みを始めたいと思っても、なかなか難しいものです。小地域活動を実施する場合の手法・ノウハウが構築されていないからです。私たちが試みた平易な原則と実施方式で、多様な活動が一挙に展開できて、それぞれの活動が自律発展的に運営できています。

*平成24年度岐阜県「地域の絆づくり重点推進モデル事業」地域指定

【活動の名称】	「みんなの家」事業	
【団体名】	桜ヶ丘ハイツ地区社会福祉協議会	[可児市]

【概要】

桜ヶ丘ハイツは、人口約 9,500 人の郊外型大型住宅団地で、名古屋のベッドタウンとして開発され、現在にいたっていますが、高齢化の進行にともない、住民同士の支え合いのしくみが必要不可欠になってきました。

そこで、桜ヶ丘ハイツ地区社協は、活動の拠点として「みんなの家」を設立・運営し、住民誰もが参加して、顔と顔のみえる中で、共助の関係を結べる場づくりをしています。

【活動の実際】

1 相談窓口

暮らしの中での様々な困りごとについて、住民からの相談を受けています。

そして、地区社協活動の他の事業である「この指とまれ」（家事支援）や移動支援のスタッフとのマッチングをはかり、問題解決にあたっています。

2 様々な講座の主催

一人でも多くの住民に地域へ出てきて頂くために、面白くてためになる各種のミニ講座を開いています。

講師は、地域の有識者をお願いし、地域住民同士の交流をはかっています。

3 様々な立場の住民が集える場づくり

認知症患者の方がみえる家族の方々同士、障がいのある方がみえる家族の方々同士などの交流を提供するだけでなく、高齢者、園児、小学生、独居者など立場や世代を越えた様々な交流の場をつくりだしています。

4 地域人材の発掘

地域のために役に立ちたいという意志と知識技能をもった人材に呼びかけることで、手を挙げて頂き、地域の諸課題とのマッチングをはかっています。

【今後の展開】

地域内のご近所同士のつながりを強めることで、様々な課題への対処をはかっていきます。地道に各住民へ呼びかけ、地域のつながりの中で、自分たちに何ができるか考えていただき、参加意識を育てていただくための働きかけをしていきます。地域内各団体のとりまとめ役として、「言わずもがな」で成り立つ地域づくりを目指します。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

互いに支え合う地域をつくるために、出来るだけ多くの住民に地域に出てきてもらい、顔と顔の見える関係をつくるのが大切です。

たとえ遠まわりに感じても、着実に地域に広がっているようなとりくみをあきらめずに地道に継続していきましょう。

【活動の名称】	高齢化もなんのその！地域の“絆”再生事業	
【団体名】	高山市社会福祉協議会	[高山市]
<p data-bbox="165 315 256 347">【内容】</p> <p data-bbox="153 365 1428 595">この事業は平成20年度「新たな公」によるコミュニティ創生支援モデル事業（国土交通省：単年度）を活用し取組み始めた。限界集落が点在する高山市高根町地域で不安を抱えて生活する一人暮らしや高齢者世帯の方々が、12月～3月末まで暮らすという冬期限定の高齢者用集合住宅「のくとい館」に、様々な機関や地域の協力、マンパワーを活用しながら高山市社会福祉協議会が開設し毎10人ほどが入居している。</p> <p data-bbox="165 663 344 694">【活動の内容】</p> <ol data-bbox="153 712 1428 1093" style="list-style-type: none"> <li data-bbox="153 712 1428 792">① 合併等による人口減少に伴い、町内にある小中学校が隣町の学校と統合したことにより遊休施設となった旧教職員住宅を冬期高齢者専用住宅に改装し開設。 <li data-bbox="153 810 1428 994">② 一晩に50cm以上積もる雪は、一人で暮らす高齢者の不安を大きくする。そこで、他地域の若者（国際ボランティア活動グループ）などを募り、冬期間の除雪ボランティア組織を結成。併せて、地域住民にも協力を呼びかけ、住民やボランティアが入居者の家屋の雪降ろしや留守中の見守活動などを促し地域の絆を創生して行く。 <li data-bbox="153 1012 1428 1093">③ 「のくとい館」を活用して健康サロンや地域交流事業を実施するほか、高山市内や他地域の住民が高根地域を訪れ、地域を越えた交流を図る。 <p data-bbox="165 1160 432 1191">【今後の展開と課題】</p> <p data-bbox="153 1209 1428 1491">この事業では、その場所の立地条件も成果を上げた一つのカギだと言える。幸いにして「のくとい館」の周辺は高根町の中心部にあったことが、その立地条件をクリアさせた。平成の大合併で不要になった建物を有効に活用し、更に子どもたちの声が聞こえなくなり、地域コミュニティの形成が危ぶまれる山間地の再生に必要な、住民の繋がりをより強くする。この事業を継続して行く為の大きな課題として運営費不足が上げられる。2年目以降、利用料の他は高山市が地域振興予算で支援してくれていたが今後の財源確保が課題である。</p> <p data-bbox="153 1509 1428 1693">その他、旧高山市内の商店街には空き店舗が点在しており、現在3店舗をサロンや子育て支援、地域のたまり場「よって館」（コミュニティの創生）として活用しているが26年度で、更に空家を1件借り受け外出支援や買い物支援等を通して高根地域のような山間地の皆さんが買い物に来たついでに立ち寄って行けるような拠点（「よって館」）を目指して行く。</p>		

【活動の名称】	生活支援サービスの提供	
【団体名】	オアシス山口（有償ボランティア）	[中津川市]

【内容】

この活動は、高齢者の方たちが、住み慣れた地域で、いきいきと生活していただけるように、生活支援サービスの提供を通じ、「地域の支え合いの輪」づくりを目的とした会です。

対象は、1人暮らしの高齢者、高齢者世帯（夫婦とも65歳以上）の方です。

サービス提供者は、年齢、性別、職業に関係なく「オアシス山口」の趣旨に賛同していただけるかたが会員になっていただいて、ボランティアで活動します。

サービス内容は、家屋内の大掃除（障子張り、ガラス拭き等）や電球の取替え、話し相手、屋外では、雪かき、家屋周辺の草刈り、庭掃除（草むしり、庭木の剪定）、お墓掃除など、お使いは、買い物の代行やゴミ出しなど、困った時に気軽に利用していただけるよう、地域の団体との連携を大切にしています。また、地元の野菜で季節の食材のお弁当をつくり、配達をして大変好評を得ています。さらに、公共施設の環境整備のボランティアにも積極的に参加しています。

最近、高齢者を支えていく活動が知られていくようになったためか、利用者が多くなり、サービス提供者が少なく追いつかないという問題がでてきました。



窓拭き作業



サービス提供会員方のクリスマスプレゼント作りの様子

【今後の展開】

現在も社会福祉協議会山口支部、山口地域づくり推進協議会、老人クラブ、PTAなどの団体と連携を持ち、協力して活動にあたっています。今後も、さらに地域と連携し、サービス提供会員、利用者会員を増やし、活動を充実させていきます。

【活動の名称】	地域密着型の生活支援	
【団体名】	みのかも支え愛リング	[美濃加茂市]
<p data-bbox="164 315 256 347">【内容】</p> <p data-bbox="153 365 600 396"><活動対象者> 美濃加茂市民</p> <p data-bbox="153 414 999 445"><活動の参加者> みのかも支え愛リング会員（美濃加茂市民）</p> <p data-bbox="153 463 328 495"><組織説明></p> <p data-bbox="180 512 943 544">支え愛リングには会長（1名）と副会長（2名）がいる。</p> <p data-bbox="180 562 1106 593">支え愛リングは6つの部会があり、各部会に部会長・副部会長がいる</p> <p data-bbox="180 611 1425 696">総務部会…支え愛リングの事務を担当する。市民からの依頼を受け付け、各部会へ活動を振り分ける。</p> <p data-bbox="180 714 1425 799">地区部会…太田部会、古井部会、山之上部会、下米田部会、連合（三和・伊深・蜂屋）部会に分かれている（小学校区が基本）。</p> <p data-bbox="153 817 328 848"><活動内容></p> <p data-bbox="153 866 1425 952">美濃加茂市民の中で生活に不便を感じている市民へ、ボランティアが生活支援を行う。ゴミ捨て、草引き、室内清掃、傾聴などが主な内容である。</p> <p data-bbox="153 969 1425 1055">他に各部会の自主的活動として、サロン（古井・太田・下米田）、パソコン教室（山之上）、地域清掃（連合）を行い、支え愛リングのPRと会員の交流を図っている。</p> <p data-bbox="153 1072 1425 1158">平成24年3月発足、7月から活動サービスを開始し、平成25年9月末現在での活動回数は100件を超えている。</p> <p data-bbox="164 1211 344 1243">【今後の展開】</p> <p data-bbox="153 1261 1425 1444">会員の増員が急務である。また、あまり活動に顔を出せない会員に対してのアプローチとして会報の発行を検討中。活動費の確保も問題で、各助成金などの申請をしている。ボランティアサービスの一部有料化の話も出ている。また、会員の意識向上を目的に、講座などを企画していく予定。ボランティア活動については現状を維持しつつ、件数が増加した場合に備えていく。</p> <p data-bbox="347 1485 1230 1516">◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆</p> <p data-bbox="153 1556 719 1588">◎これから活動を始め方へのメッセージ</p> <p data-bbox="153 1606 1425 1691">活動目標をしっかりと定め、参加者にはその目標を十分説明し、理解してもらうことが大切です。また、支援対象者の開拓も参加者に活動機会を与える意味で重要だと思います。</p>		

【活動の名称】	買い物支援（生活支援）事業	
【団体名】	大垣市社会福祉協議会・上石津地区社会福祉推進協議会	[大垣市]

【内容】

中山間地にある上石津町は高齢化率が30%を越え、高齢者の買い物などへの移動手段に不便を感じている地域課題が年々増えてきました。そこで、ひとり暮らし高齢者・高齢者世帯を対象にニーズ調査を実施し、結果を踏まえ自治会単位で利用できる実施方法を検討しました。最もニーズが多かった地域（牧田地区）をモデル指定し、大垣市社協所有の高齢者の買い物や生活を支援する送迎車輛（10人乗りワゴン車）を活用し、実施運営を上石津地区社会福祉推進協議会（住民組織団体）で行うことになりました。

対象者は概ね65歳以上の高齢者。運転手は各自治会内で有償ボランティアを選び、利用範囲は上石津町内及び隣接する地域の商店とし、平成24年11月より運行を開始しました。上石津地区は昔ながらの住民同士のつながりが根強い地域です。地域住民が、買い物支援（生活支援）事業を利用することで、支え合い・助け合い、お互いが見守り合う見守り活動の強化ができます。実際に、自治会単位での利用なのできめ細やかな情報収集や確認ができ、自治会長・民生児童委員・福祉推進委員・サロン関係者・近隣同士など連携も密にできています。この事業を利用されている方々からは大変喜ばれ利用回数、利用人数も増加傾向にあります。



【今後の展開】

平成25年7月から上石津地区全域に事業運営を展開しています。利用したいという住民のニーズは多いですが、実際に自治会単位での運転手の確保が難しく、運転手が決まらず、この事業を利用できない自治会があります。今後、連自治会単位（4地区）で運転手の確保ができるよう検討中です。地域に根付いた福祉サービス事業としてこれからも、上石津全域に理解を求めながら効率よく事業を実施し、安全に快適に運行できるよう体制整備を進めていきます。

また、他の地域でもニーズに応じ事業の推進を図ります。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

当自治会は、中山間地の僻地にあり、世帯数33世帯、高齢者のみの世帯は9世帯あり、独居世帯は3世帯です。高齢化率も高く44.6%となって昼間は高齢者のみの集落です。利用者からは「僻地で商店もなく、買い物が不便だったが便利になった」「買い物を人に頼んでいたが自分で選んで買い物ができる」「色々と食品を選んで買い物ができる」と大変好評です。参加者全員から「車中で話ができて楽しい」「次回が待ち遠しい」など喜びの声が聞こえてきます。

【活動の名称】	根本おでかけバス運行事業
【団体名】	根本おでかけバス運営委員会 [多治見市]

【内容】

この事業は、多治見市郊外の丘陵地にある高齢化した団地で、自家用車の利用が困難な方々の生活の足を確保するために、地域で商業施設や病院等を回るマイクロバスを運行するものです。

平成 23・24 年度に多治見市が実施した社会実験の結果を踏まえ、運行地域の自治会、関係団体が中心となって運営委員会をつくり、平成 25 年 9 月 2 日から運行を開始しました。

運行主体：根本おでかけバス運営委員会

運行ルート：JR 根本駅を中心とした 4 ルート

運行日：月曜日、水曜日、金曜日（祝日及び 12 月 29 日～1 月 3 日は運休）

便数：1 日 5 便

対象者：どなたでもご利用可能

料金：1 乗車ごと 200 円（小学生以下は無料）

1 日乗車券 300 円



【今後の展開】

利用者の方、地域の住民の方の声を聴きながら、必要に応じてルートや時刻を見直すなど、より利用しやすい地域の生活の足になるよう事業を継続していきたいと思えます。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

地域主体でのバス運行について行政からの提案だったため、必要性は認識しつつ、地域住民が運行経費の一部を負担することについて慎重な意見もありました。しかし、将来のために今から取り組むことが大切だという合意に達し、本格運行に至りました。今後は利用者を増やして地元負担を減らす努力が求められています。

【活動の名称】	生活支援活動を担える住民の育成と活動
【団体名】	NPO法人 校舎のない学校 [池田町]

<はじめに>

今後高齢とりわけ後期高齢者の大幅な増加が見込まれる。増え続ける介護ニーズを今後もこれまでのように介護保険サービスでカバーし続けることは困難である。制度外サービスを担う力と意志をもった住民を育成し、組織化し、実際の支援活動に結び付けることが地域の急務である。

<活動参加者とサービス対象者>

この活動の特徴は、介護のプロと連携していることである。サポーターになるには、まず対人援助や介護に関する基礎的な知識と技術を5日間の講義と実習で学習する。この講義等はプロの介護職や福祉専門学校教師、サポーター経験者等が担当する。支援の必要な高齢者のお宅にも実習に入る。研修終了後は「サポーター」として登録し、連絡調整役であるコーディネーターからの支援依頼に応じて実際に活動を開始する。支援の依頼は多くの場合ケアマネジャー等の介護専門職から来ている。主な支援内容は①掃除・洗濯・調理等の家事、②外出・通院の支援、③草むしりや庭の手入れ、④話し相手等である。2013年8月には月間200時間のサービス提供時間を突破した。利用料は1時間1000円(利用券)、半分がサポーターの活動費となる。サポーター数は約100人、サービス利用者もほぼ同数である。毎月の「サポーター会議」において、活動に関する様々な情報を交換したり勉強の機会を持っている。提供範囲は、大垣市、垂井町、池田町と拡大している。



月1回の会議で事例検討し学ぶサポーター達

<活動効果・今後の課題>

サポーターのサービスを利用することによって、介護の必要な高齢者が在宅生活を継続できるようになった。家族の負担や不安が軽減し在宅介護への意欲が継続している。サポーターは「自分は社会につながり、人のためになっていると実感」しており、高齢化していく地域社会の担い手としての自覚と自負を有している。今ではケアマネジャーのケアプランにも組み込まれるようになった。今後の地域包括ケアの実現にとってサポーターの活動は不可欠である。各地域にサポーターが活動できるよう支援していきたい。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

※ 活動を始めてよかったなあ・・・と思うこと

自分(70歳)より年齢の上の利用者さん(90歳)から「あなたにはずっと元気でいてもらいたい」と言われ、自分自身の健康管理により注意するようになった。

※ ここは本当に苦勞した・・・と思うこと

負担になるため「お茶を出してもらって飲まない」と決めていたが、出されると申し訳ないと思ってしまう。

※ 活動を始めるとのコツは「〇〇」だと実感したこと

- ・自分は何ができる？
- ・楽しくなくては続かない
- ・仲間と一緒にやれば苦勞も吹っ飛ぶ
- ・一歩踏み出さなくては始まらない

配食サービス

【活動の名称】	まごころ給食
【団体名】	社会福祉法人 本巣市社会福祉協議会 [本巣市]
【取組の概要】	<p>この事業は、地域にお住いの75歳以上のお一人暮らし高齢者や及び90歳以上の高齢者を対象に、ボランティア手作りの季節の料理をお届けし、安否確認を行う事業です。</p> <p>1年を通じて5回の活動を行い、たけのご飯やみょうがぼち、栗ごはん等季節の郷土料理をボランティアの手作りでお届けしています。</p> <p>また配食には、民生委員さんやボランティアさんの協力をいただきながら、毎日の生活の中で不便なことや困ったことはないかなど見守りを行っています。</p>
【取組による成果】	<p>この事業を行うことにより、他の事業と連携を取りながら年間を通じて見守りを行うことができます。また、みょうがぼちやおはぎなど郷土料理をお届けすることにより、昔懐かしい味を楽しんでいただき、配食時にはいろいろなお話を聞くことができます。その話の中から高齢者の方が何を望んでいるのか、何に困っているのかを聞き取ることができ、必要な支援へ結びつけることができます。</p>
  	

【活動の名称】	食事サービス事業
【団体名】	大垣市地区社会福祉協議会 市内20地区社会福祉推進協議会

【内容】

地域住民の助け合い・ふれあい活動として、ひとり暮らし高齢者の方などを対象に、地域での支援体制をつくることを目的に地区社協のボランティア（民生児童委員、福祉推進委員、日赤奉仕団、婦人会、食生活改善協議会など）を中心に、手作りのお弁当をランチジャーにつめて配達しています。

昭和55年11月にモデル地区として、興文地区で実施され、平成25年4月現在、20地区社協（21ヶ所）で実施されています。地区により、月1回から毎週1回まで開催回数はさまざまです。また北地区では、高齢者とボランティアと一緒に調理し会食する「さくら会」を月に1回開催しています。

利用希望者の調査等を民生児童委員が中心となつて行ない、障がい者世帯や高齢者世帯についても、地区社協の判断で必要に合わせてサービスを展開しています。

食事サービス事業は赤い羽根共同募金の配分金を受け、1食200円を利用者に負担いただき材料費の一部にあてています。

また大垣桜高等学校がある墨俣地区では、年2回、高校生が考案した特別メニューを利用して、お弁当の調理、配達にも関わりって大変好評をいただいています。

～ 笑顔を届ける ふれあい・見守り活動 食事サービスの様子 ～



↑ 調理の様子



↑ お弁当の様子



↑ 配達の様子



↑ 配達の様子（高校生と）

～ 各地区の開催状況 ～

地区名	初回開催日	開催場所	実施日	実施形式	回数	囲む会 実施回数
興文	S55.11.10	総合福祉会館	毎週木曜	夕食・配食	月4回	年2回
北	S56.9.24	青年の家	毎週水曜	夕食・配食/昼食・会食	月4回	年1回
西	S56.11.13	総合福祉会館	毎週金曜	夕食・配食	月4回	年1回
中川	S56.11.19	中川地区センター	毎週木曜	夕食・配食	月4回	年1回
三城	S56.12.2	三城地区センター	毎週水曜	夕食・配食	月4～5回	年1回
南	S58.9.13	総合福祉会館	第2・4月曜	夕食・配食	月2回	年1回
安井	S59.4.19	安井地区センター	第1・2・4火曜	昼食・配食	月3回	年2回
東	S60.11.19	平野学園	第2・4水曜	夕食・配食	月2回	年1回
静里	S61.4.7	西部研修センター	第2・4金曜	夕食・配食	月2回	年1回
日新	S62.6.13	日新地区センター	第1・3金曜	昼食・配食	月2回	年1回
宇留生	S62.11.25	宇留生地区センター	第1水曜・第3金曜	夕食・配食	月2回	年2回
赤坂東	H2.5.25	赤坂東地区センター	第2・4金曜	夕食・配食	月2回	年1回
和合	H2.9.16	和合地区センター	第2・4日曜	昼食・配食	月2回	年1回
赤坂中	H4.9.25	赤坂地区センター	第4金曜	夕食・配食	月1回	年1回
青墓	H5.3.18	赤坂総合センター	第2・4木曜	夕食・配食	月2回	年1回
荒崎	H6.4.21	荒崎地区センター	第3木曜	夕食・配食	月1回	年1回
上石津	H18.4.25	上石津老人福祉センター	第4水曜	夕食・配食	月1回	年1回
墨俣	H18.5.25	墨俣老人福祉センター	第1・3木曜	昼食・配食	月2回	年2回
綾里	H20.10.15	綾里地区センター	第3水曜	夕食・配食	月1回	年1回
江東	H22.4.21	江東地区センター	第3水曜	夕食・配食	月1回	年1回
川並	H23.10.20	川並地区センター	第3木曜	昼食・配食	月1回	年1回



◎これから活動を始め方へのメッセージ

33年間続いている活動です。利用者の方にはボランティアさんの笑顔とおいしい手作りのお弁当が好評です。訪問時に異変に気が付き、ボランティアさんの連携により早期に対応ができたこともあります。事業を行なうことで、地域での連携を強めることにもつながっています。

【活動の名称】	配食サービス
【団体名】	笠松ボランティア 松枝ボランティア 笠松町赤十字奉仕団下羽栗分団 [笠松町]
<p>【内容】</p> <p>ひとり暮らし高齢者を対象に月1回開催。(7、8、9月は中止。)</p> <p>毎月1回、各団体により、手作りの食事を作成し、弁当箱を届ける時と弁当箱を回収する時の2回、ひとり暮らしの方との交流を図る。</p> <p>現在は、共同募金の配分金を利用し無料で実施。</p> <p>【今後の展開】</p> <p>月1回の開催のため、回数を増やしての実施について検討。</p> <p>ボランティアの高齢化により、回数の増加は難しい現状。</p> <p>今後、毎食型となれば、業者をお願いすることになる。また、料金も無料ではなく、一部補助にするのか、全額自己負担にしていくのかも検討しないといけない。</p>	

【活動の名称】	京町地区幼児・児童とひとり暮らし高齢者とのふれあい広場	
【団体名】	京町地区社会福祉協議会京町支部	[岐阜市]

【内容】

岐阜市の中心部に位置する京町地区は、岐阜市で高齢化率(40%)が一番高く、社会福祉事業の充実が望まれている地区であります。社会福祉協議会京町支部では、岐阜市社会福祉協議会が推進しているいろいろな福祉メニュー事業を選択し実施しています。その中の一つに「幼児・児童と一人暮らし高齢者とのふれあい広場」事業があります。

この事業は、孤独で家にこもりがちな皆さんの外出支援と仲間づくりを目標に、ひとり暮らし高齢者を京町保育所に招き、園児と歌やお遊びで楽しいひと時を過ごし、お互いのふれあいが深められる事業です。

もう一つは、京町地区子ども会育成会主催の「子どもフェスティバル」事業に、ひとり暮らし高齢者が参加交流し、児童と一緒に学び・遊び・折り紙やプラパンによる作品づくりなどの共同作業を楽しむものです。子どもたちとにこやかに活動される姿が印象的です。このことにより、子どもたちはひとり暮らしの高齢者と顔見知りになり、地域で出会ったときは、自然にあいさつができます。

この交流が終わった後は、社協支部・婦人会・民生委員の皆さんによる手作りの美味しい食事を召し上がりながらこの事業の趣旨や目的を聞き、思い思いの話に花を咲かせふれあいが深まります。「次も来ようね。」との囁きが聞かれ、この事業の価値を強く感じます。



【今後の展開】

京町地区では、ひとり暮らし高齢者に対するいろいろな福祉事業(健康福祉フェスタ・一人暮らし高齢者の見守り・一日招待旅行・緊急時おねがい情報・健康相談(血圧測定・尿検査・相談・健康セミナー)とふれあいいいききサロンなどを推進しています。「ふれあいいいききサロン」事業は、毎月の開催に加え、地域の喫茶店のご協力を得て2回ほどの「出前ふれあいサロン」を開催していますが、新しい仲間がなかなか増えないのが課題です。

今後は、現状を分析し参加者の意見や他地区などの情報を収集し、新しい企画を加え、「つながり、かかわり」を大切にしながら、新しい仲間づくりを考えていきたいと思ひます。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

京町地区は、高齢化率が40%を超え、福祉政策が重要な課題であります。特に、高齢者の孤独死、引きこもり、詐欺や火災事故などから生命を守る手段は、人や地域の「つながり、かかわり」がキーワードであると思ひます。この点からも、校区の小学校で実施されているコミュニティ・スクールはすばらしいシステムであると思ひます。

【活動の名称】	在宅高齢者の話し相手ボランティア活動	
【団体名】	おしゃべり隊	[八百津町]
<p data-bbox="165 315 256 344">【内容】</p> <p data-bbox="153 365 1426 448">この活動は、地域で生活してみえる高齢者の孤独感の解消や見守りをはかるため、話し相手を希望される方の自宅を訪問してふれあいを図るものです。</p> <p data-bbox="181 465 940 495">八百津町内にお住いの方すべてを対象に活動しています。</p> <p data-bbox="153 515 1426 598">おしゃべり隊は、活動を終えた後、活動日誌を社会福祉協議会に提出します。活動日誌には、見た目の体調状態や福祉課題等があればご記入いただくものとなっています。</p> <p data-bbox="153 616 1426 745">訪問時には、名札やベストを着用し、自家用車にはマグネットを貼るなどして、活動のPRを図るとともに、訪問販売の業者などに、公的な組織がかかわっていることを視点の面からアピールすることができ、被害の防止も図れます。</p> <p data-bbox="153 763 1426 846">また、民生児童委員がかかわって見えるお宅については、初回訪問時に同行していただくようにしています。</p> <p data-bbox="153 864 1426 947">さらに、おしゃべり隊は、必要があれば打ち合わせをして活動の報告や活動方法の点検等を行い、研修会を開催してスキルアップを図ります。</p> <p data-bbox="165 1014 344 1043">【今後の展開】</p> <p data-bbox="153 1064 1426 1245">平成24年度に県社協の支えあいの活動づくり支援事業の補助金を活用して立ち上げたおしゃべり隊ですが、今年度から活動をスタートしたため、町民への周知をより一層図るとともに、活動への理解者を増やしボランティア団体として充実するよう本会としても研修会や活動への支援等していきたいと考えています。</p> <p data-bbox="153 1263 1426 1393">この活動が定着することによって、地域の高齢者の孤独感の解消・見守り及び福祉課題を吸い上げ、問題の解決や社協としての事業に反映する事にもつながり、地域福祉の増進につなげたいです。</p> <p data-bbox="153 1411 1426 1541">より多くのボランティアが地域ごとにグループができていくことによって、ボランティア希望の高齢者宅へのボランティア派遣調整連絡網も作成し、地域ごとにまとめ役も育成していきたいです。</p>		

【活動の名称】	地域福祉懇談会の開催
【団体名】	揖斐川町
<p data-bbox="165 315 256 344">【内容】</p> <p data-bbox="153 365 1426 445">町が策定した地域福祉計画と社会福祉協議会が策定した地域福祉活動計画を推進するため、平成21年度より毎年1回、町内11地区で「地域福祉懇談会」を開催しています。</p> <p data-bbox="153 465 1426 595">地域福祉懇談会は、行政推進員、民生委員児童委員、福祉委員、ボランティア団体、福祉関係者など多数の方に参加していただき、どんなことが地域で求められているのか、何ができるのかを地域住民の方々と一緒になって話し合い、共通の問題意識をもつことを目的にしています。</p> <p data-bbox="153 616 1426 745">毎回、懇談会のテーマを設定し、参加者の皆さんにグループワークで話し合いをしてもらいながら、昨年はどんな活動ができたか、課題となったことは何か、今後の地区の行動目標はどうしたらよいかなど様々な意見交換をしてもらっています。</p> <p data-bbox="153 766 1426 846">懇談会で話し合われた取組内容や今後の流れについて、地域福祉懇談会報告書として取りまとめ、地域福祉(活動)計画評価委員会へ報告、提案しています。</p> <p data-bbox="153 866 1426 996">懇談会を機に、地域のネットワーク化をはかるために話し合いを始めた地域やサロンを始めた地域、組織を立ち上げこれから機能する地域も見受けられます。それぞれの足並みは違いますが、住民の意識が変わろうとしています。</p> <p data-bbox="153 1016 1426 1097">今後も、地域福祉懇談会を継続し、具体的な取組や活動事例を紹介しながら、理解と協力を求め、地域における主体的な活動が推進していけるよう、取り組んでいきたいと思っています。</p> <p data-bbox="384 1167 1222 1193" style="text-align: center;">◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆ ◆</p> <p data-bbox="153 1263 719 1292">◎これから活動を始め方へのメッセージ</p> <p data-bbox="153 1312 1426 1393">地域福祉懇談会は、今年で5年目を迎え地域で定着しつつあります。地域の生の声を聴いたり、再認識すること、新たに発見することが多いため、今後も継続していきたいと考えています。</p>	

学校における取組

【活動の名称】	ふるさと学習
【団体名】	岐阜市立岐阜小学校 [岐阜市]

本校では、子どもたちに地域社会の一員として、地域の行事などに進んで参加するだけではなく、それらに参画できる子どもたちを育てようとしています。そのために、本校が推進しているコミュニティ・スクールとしての取組とも関わらせながら、子どもたちに次のように地域の人と「つながり、かかわり」ながら体験的な活動を進めています。

■低学年の取組として…地域の高齢者や働いている人たちと関わる。

1年生では、毎年10月から11月にかけて、昔から伝わってきた遊び（おはじき、こま、紙飛行機など）を地域の老人会の方から学びます。1月には地域の幼稚園児などに教えながら一緒に遊ぶという活動を行っています。

2年生では、生活科で地域のお店や工場などを訪ねて、働いている方とふれあいながら、町の様子を知るという「町探険」を実施しています。



■中学年の取組として…花作り・菊作りや銀杏の収穫と配布、総合的な学習の時間では「まち博士になろう！」などを高齢者や地域の方から学ぶ。

3年生では、「まち博士になろう！」という単元で、地域の皆さんから岐阜公園の歴史や岐阜大仏について聞く機会をもち、ふるさとへの誇りを教えてもらいます。

4年生では、地域の老人会の方と共に菊作りを行っています。このお礼も含めて、冬には銀杏の収穫と乾燥させた銀杏を手紙と共に袋詰めして老人会やひとり暮らしの高齢者に贈ります。

また、地元の盲学校の子どもたちと道徳の授業を一緒にやったり、遊んだり、思いを聞いたりするなどしながら、同じ世代の障害のある子どもたちの思いを理解する交流をしています。



■高学年の取組として…ふるさとを紹介し、ふるさとに対して自分たちでできる活動を創造する。

5年生では、「ふるさとガイドブックをつくろう。」という単元で、ふるさとを紹介する活動をしています。6年生では、4年生で行った銀杏の取組と重ねながら、道徳の授業でイチヨウの木の歴史を母校（本校）への熱い思い（愛校心）と共に卒業生から聞く時間を持ったり、本校の周辺を自ら清掃してくださる地域の方のお話を聞くなどして、自分たちの活動として落ち葉拾いを生み出すなどしています。

このように、子どもたちが住んでいる「ふるさと」を題材にしながら、地域の人たちとふれあい、交流をすすめていくことで、「つながり・かかわり」力を育て、地域社会の一員としての自覚をもたせ、地域の人と共に歩む意識を育てたいと考えています。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

本校が推進している「ふるさと学習」では、様々な点（ゲストティーチャーや訪問・体験する職場の選定、行事への参加、活動への協力など）について、地域の方に協力をいただき子どもに良質な体験をさせたり、活動を進めたりしています。このようになるまでには、コミュニティ・スクールとしての趣旨の理解や共に活動する時間など、地域の方や保護者などと一緒に粘り強く進めていくことが大切だと思います。

【活動の名称】	福祉学習『共に生きる～高齢者と自分』
【団体名】	岐阜市立岐阜中央中学校 [岐阜市]

岐阜中央中学校では、生徒が地域や社会と関わりながら、将来を豊かに生きていく力を身に付けていくために、体験的な学習を大切にしています。その中の活動の1つとして、3年生の後期に福祉学習を行い、『共に生きる』ことについて学びます。

『共に生きる～高齢者と自分』の学習では、「高齢者疑似体験」や「高齢者福祉施設での福祉体験」を行います。平均寿命が伸び、誰もが年を重ねて体が思うように動かなくなったり、福祉施設で過ごす機会があるかもしれません。そこで実際の福祉体験学習では、地域にあるデイサービスセンターなどの社会福祉施設に4～5人の班単位で出向き、高齢者の方と一緒にゲームをしたり話をしたりします。こうした体験を通して高齢者理解をすすめ、コミュニケーションの仕方を学びます。地域の14施設の協力のもとで実施するこの学習で、生徒たちは今までの学校生活や家庭生活と違うことをするのではなく、普段の生活のなかで大切にしていることが生かされることを実感します。

この学習を通して、生徒の一人は以下のような感想をもちました。

福祉学習を通して、高齢者になって体が不自由になっても、夢中になれるものがあったり楽しいことができたりすることは、素晴らしいことだと思いました。動かしづらい体でも、何かものを作ったり成し遂げたりしたときの達成感・感動があると思ったからです。いつか私も高齢者のお世話をするようになると思うし、私自身も高齢者になります。その時が何年後になるかはわからないけど、その時にはこの学習を思い出して相手の気持ちになって考えて、助けてまた助けられて生活していきたいです。

心もバリアフリーでみんなが幸せに生きる社会を築く態度をもち、『共に生きる』ことの意味について、深く考え、自信をもって生きていくことを願っています。



◎これから活動を始め方へのメッセージ

岐阜中央中学校は開校2年目になります。生徒たちは、地域の方の温かい支援を日々実感しながら生活をしています。市街地の中心部にある校区は、高齢化率も高いのが現状です。心が若くやわらかいうちに、人と関わる多くの体験をすることが大切だと感じています。

